令和2年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第2号 (5月の発生予想)

令和2年5月1日

	予報内容	
【作物名】 病害虫名	発生量:平年比 発生程度:	予報の根拠
	発生時期:平年比	

【水稲】

イネドロオイムシ	量:多い 時期:やや早い	① 前年の成虫発生量は平年並、幼虫被害は平年比 多かった。(+) ② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量はほ ぼ平年並と予想されている。(±)
イネミズゾウムシ	量:やや少ない 時期:やや早い	① 前年の成虫発生量、成虫による被害はともに平年比少なかった。(一) ② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(+)

【なし】

【なし】					
黒斑病	量:やや少ない 時期:やや早い	① 前年の発生量は平年比やや少なく、越冬菌量も 平年比やや少ないと推察される。(一)			
		② なしの生育は平年比やや早い。			
		③ 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量はほ			
		ぼ平年並と予想されている。 (±)			
黒星病	量:多い	① 前年の発生量は平年比多く、越冬菌量も平年比			
	時期:やや早い	多いと推察される。(+)			
		② 4月下旬の発病花葉そう率は平年比高かった。			
		(+)			
		③ なしの生育は平年比やや早い。			
		④ 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量はほ			
		ぼ平年並と予想されている。(±)			
	【防除上の留意事項】				
	① 花葉そう基部の病斑り	は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、			
	園外に持ち出して適切に処分する。				
	② 病落葉からの子のう胞子感染期(4月下旬~5月上旬)は重点防除時期で				
	あるため、その時期の防除を徹底する。園地周縁部等の薬剤のかかりにくい				
	部分に対しては補正散布を行う。				
		するため、作用機構の同じ薬剤の連用を避け、作用機			
	構の異なる剤を交互に依	使用する。			

【なし】つづき			
セイヨウナシ 褐色斑点病	量:やや少ない 時期:やや早い	① 前年の発生量は平年比やや少なく、越冬菌量も平年比やや少ないと推察される。(一) ② 主要産地では一次伝染源となる病落葉の処分等が取り組まれた。(一) ③ 4月下旬の花葉そうの発病は未確認で平年並。(±) ④ なし(ル レクチエ)の生育は平年並。 ⑤ 向こう1か月の気温平年比は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。	
	ち出して適切に処分する ② 開花初期〜大袋かけ前時期の防除を徹底する。 補正散布を行う。	前(6月5日)までは重点防除時期であるため、この 園地周縁部等の薬剤のかかりにくい部分に対しては するため、同一系統薬剤の連用を避け、作用機構の異	
ナシヒメシンクイ	量: やや多い~多い 時期: やや早い	① 4月下旬現在、フェロモントラップでの越冬世代成虫の誘殺数は平年比やや多い。(+) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)	
	【防除上の留意事項】 5月上~中旬の第1世代幼虫の防除を徹底する。		
ハマキムシ類	量: やや多い〜多い 時期: やや早い	 ① 前年のフェロモントラップでの誘殺数は平年並 ~多く、越冬幼虫量も平年並み~多いと推察される。(±~+) ② 4月下旬の花葉そうでの被害は未確認で平年 並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて いる。(+) 	
	【防除上の留意事項】 園内をよく観察し、花動までに防除を行う。	葉そうに被害がみられる園地では4月下旬~5月上旬	
アブラムシ類	量:並 時期:やや早い	① 前年の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)	
クワコナカイガラム シ	量:並~やや多い 時期:やや早い	① 前年の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)	
	5月第3半旬頃と推察さ	時期(50%分散日)は、4月の日平均気温から平年並のされる。 が高いので、防除時期が遅れないよう注意する。	

【作物名】 発生量:平年比 予報の根拠 病害虫名 発生程度: 予報の根拠 発生時期:平年比

【なし】つづき

ニセナシサビダニ	量:並~やや多い 時期:-	① 前年の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
	ルフェンピラド水和剤な ② 本種は日本なしだけて	D発生がみられた園地では、4月下旬~5月上旬にトなどの防除効果の高い薬剤を散布する。でなく、ル レクチエにも寄生するので、前年にモザれた園地では、日本なしと同様の防除対応を行う。

[もも]

<u> [66]</u>		
せん孔細菌病	量:並 時期:並	① 前年秋期の発病葉率は平年並で、越冬菌量も平年並と推察される。(±) ② ももの生育は平年比やや早い。 ③ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
	じるので園内をよく観察 ② 病原菌は葉や果実の たりの強い園地では防原 ③ 薬剤防除は多発生し	型枝病斑の切除を行う。春型枝病斑は落花期頃から生 察する。 自然開口部(気孔等)や傷口から侵入するので、風当 風ネット等の防風対策を徹底する。 てからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がけ 月上旬~7月中旬である。
モモハモグリガ	量:並 時期:並 【防除上の留意事項】 5月上~中旬の第1世代	 ① 前年のフェロモントラップの総誘殺数は平年比やや少なく、越冬成虫量も平年比やや少ないと推察される。(一) ② 4月下旬現在、フェロモントラップでの誘殺数は未確認で平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+) せの防除を徹底する。

【冬春トマト(施設)】

灰色かび病	量:多い	① 4月下旬の果実発病は平年比多い。(+)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量ほぼ
	(果実発病度1~20)	は平年並と予想されている。(±~一)
コナジラミ類	量: 少ない	① 4月下旬に寄生は認められなかった。(一)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて
	(寄生株率1~25%)	いる。 (+)
アザミウマ類	量:並	① 4月下旬に花への寄生は認められなかったが、
	程度:少発生	被害果(白ぶくれ症果)は認められた。(±)
	(寄生花率1~10%)	② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて
		いる。 (+)

【冬春いちご(施設)】

	<u> </u>	
うどんこ病	量:並	① 4月下旬の果実発病は平年比やや少ない。(一)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量はほ
	(発病果率1~5%)	ぼ平年並と予想されている。 (±~+)
灰色かび病	量: やや多い	① 4月下旬の果実発病は平年比やや多い。(+)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量はほ
	(発病果率1~5%)	ぼ平年並と予想されている。 (±~-)
アブラムシ類	量:多い	① 4月下旬の発生は平年比多い。(+)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて
	(寄生株率 1 ~25%)	いる。 (+)
コナジラミ類	量:やや少ない	① 4月下旬の発生は平年比やや少ない。(一)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて
	(寄生葉率1~25%)	いる。 (+)
アザミウマ類	量:やや少ない	① 4月下旬の発生はやや少ない。(-)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて
	(寄生花率1~2%、	いる。 (+)
	被害果率1~5%)	
ハダニ類	量:並	① 4月下旬の発生は平年並。(±)
	程度:少発生	② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて
	(1葉当たり	いる。 (+)
	寄生虫数1~2、	
	寄生株率1~40%)	

【アブラナ科野菜】

コナガ	量:並	① 4月第5半旬までのフェロモントラップ誘殺数
		は平年並。(±)
		② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されて
		いる。 (+)

- ~ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ~
- 注1:①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。
 - ②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。
- 注2:「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、 (±)はどちらともいえない要因を示しています。

~ 農薬は適正に使用しましょう ~

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- O 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の 生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 〇 水田で湛水して農薬を散布する場合は、7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課

電 話: 0258-35-0867 FAX: 0258-35-7445

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/

【参考】北陸地方 1か月予報 (5月2日から6月1日までの天候見通し)

(新潟地方気象台:令和2年4月30日発表)

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	2 0	3 0	5 0
降 水 量	3 0	4 0	3 0
日照時間	3 0	4 0	3 0

<気温経過の各階級の確率 (%)>

	低い	平年並	高い
1週目(5月2日~5月8日)	2 0	3 0	5 0
2週目(5月9日~5月15日)	2 0	4 0	4 0
3~4週目(5月16日~5月29日)	2 0	4 0	4 0